



学校だより

令和3年 10月1日

第7号

四日市市立小山田小学校

「三重県緊急事態措置」⇒「三重県リバウンド阻止重点期間」

「三重県緊急事態措置」の解除に伴い、三重県は、10月1日(金)から10月14日(木)までを「三重県リバウンド阻止重点期間」と発表しました。それに伴い、教育委員会から詳細な教育活動の対応の指示がありました。

本校としましては、緊急事態措置期間の取り組みを継続しながらも、状況に応じて、徐々に緩和してまいります。ご理解のほどよろしくお願いいたします。下の内容は、緊急事態宣言中のオンライン学習や分散学習の様子、給食時や下校時等の様子です。

オンライン学習の様子

子どもたちが家に持ち帰ったタブレットを活用し、家と学校とでオンライン学習を行いました。学校ではたくさんの機器を使い、少しでも分かりやすい授業となるよう、工夫して行いました。



分散学習の様子

9月16日、17日は、地区を2つに分け、分散登校としました。両日とも授業の前に、2学期の始業式として、校長と養護教諭から話をしました。校長からは、感染症対策を行いながらも、やれることは計画通り実施するので、元気よく学校生活を送ってほしいこと、養護教諭からは、感染拡大防止に向けて、特に手洗いを徹底することを話しました。また、担任からは、保健だよりを参考に、給食の時や登下校の時に注意すること、それ以外に、夏休みの思い出や夏休みの宿題についても話題にしました。



緊急事態宣言中の様々な学校の様子

期間中は、手洗いや給食時の黙食、下校時の間隔を徹底しました。また、地域の方が作ってくれた案山子(かかし)も手洗いを呼びかけてくれました。また、先生たちは、空いている時間に運動場の草抜きや稲刈りを行い脱穀の準備もしました。



全国学力・学習状況調査について

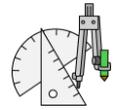


本年度、6年生が実施した「全国学力・学習状況調査」の結果です。他の学年も参考にしてみてください。確かな学力を身につけるためには、家庭学習の定着も重要と考えます。

【学力調査からみられる本校児童の特徴】

- 国語、算数の本校の平均正答率は、全国の平均正答率より上回っている。
- 無回答率も全国平均より低く、最後まで粘り強く解答している。
- 言語単元を丁寧に指導したこともあり、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が、また、日々の地道な積み重ねにより、漢字読み書きの問題が全国平均より上回った。
- 「書くこと」や「問題形式別 平均正答率」の記述式では、わずかに平均を下回っている。「書くこと」について課題が見られる。
- 基礎的な演算を積み重ねたこと、問題文から必要なことを読み取り、説明する力をつけてきたことにより、「数と計算」「思考・判断・表現」「記述式」では全国平均を上回っている。
- 「図形領域」では、わずかに全国平均を上回る結果となったものの、特に高さを求める問題に課題があった。

【児童・生徒質問紙からみられる特徴（学習、生活の状況に関して）】



学習面

- 「5年生までに受けた授業でICT機器を使用したか」では、「よく利用した」、「ICT機器を他の友達と意見を交換したり、調べたりするのにどの程度活用するか」でも、「よく利用した」と答えた子が全国平均よりも上回った。日々の授業で効果的にICTを活用できていることがわかる。
- 「話し合い活動で自分の考えを深めたり、広めたりできた」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」「学級活動における学級での話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか」について、全国平均を上回っており、話し合い活動を通して自分の考えを深めることができていることがわかる。
- 「算数の勉強は大切だと思うか」については、全国平均を上回っているが、「算数の勉強は好きか」「算数の授業内容はよくわかるか」については、全国を下回っており、調査結果は全国平均より上回っているものの、苦手意識は感じている。
- 「授業で発表するときに資料や文章、話の組立など工夫したか」について、どちらも全国平均を下回っており、主語述語の関係、結論と根拠を示すなど、発表の仕方を指導したり、議論させる機会を多く持たせたりする必要がある。

生活面

- 「自分によいところがあると思うか」「人が困っているときは、進んで助けているか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」については、どちらも全国より肯定的な割合が多く、自己肯定感・協調性ともに高い児童が多いことがわかる。
- 「学校に行くのが楽しいと思うか」については全国より肯定的な割合が多く、学校で楽しんで生活できている子供が多いことがわかる。
- 「地域の行事に参加するか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」について、肯定的な回答の割合が全国より多く、地域と深く関わりながら生活していることがわかる。
- 「あなたの家には、およそどれくらい本がありますか」「新聞を読んでいますか」について、肯定的な回答の割合が全国より多く、家庭の中で活字に触れる機会が多いことがわかる。
- 「普段、一日当たりどのくらいの時間、テレビゲームをしているか」について、ゲームをしている時間が多い子の割合が全国より高く、家庭における基本的な生活習慣に課題が見られる。



夏休みの作品展は小山田小学校ホームページで紹介しています。ご確認ください。